て退き出べき方もなかりしに伊ふ佐ぶが智どもい故を待て討死せん
と云まりを伊ふ佐ぶ制しまひ軍のなりひ故を落し故よ落さんと云定
まれば平こうて一度故ふ落されしとて家を失ひ武の恥をとすく
ぐ面なり家を西と大事をうんぞと武の本意なりて例る
伏本のうつかふ医まるふとまろへ故皆もや追きうう大場三郎京紀
一寸ふふ木はよふうみ山を必元伊風ら山中ふ医まるふ山ぶ
指まと指ぐもと下紀ふ久ふ梶原平三景時うつかの中ふ登と乃
しぐ伊とうもひうん引返してかふ出去の中うへ伊人もあうざうく
他とさぐせてあをうへうるる千僕ふ利動ぐうる家を西まられの
まふづ利へ落まひまうり家歌
歌をまりりのつぐ居まりとぞ

○今浪財宝へ人の好むところんぞを情く金ぐざるとれへん安く欲を捨まけれと利とれるん大ふ苦むものなり人の心作を苦ひ寿うん年を利へんう欲を思べよう長系へ利ん苦利へ利をねて寿う番居を類ものなれへ落り

○ 二月廿日の夜、[illegible]

○ 三月廿日の夜、[illegible]

○ 四月廿日の夜、[illegible]

○ 五月廿日の夜、[illegible]

○ 六月廿日の夜、[illegible]

○ 七月廿日の夜、[illegible]

○ 八月廿日の夜、[illegible]

○ 九月廿日の夜、[illegible]

○ 十月廿日の夜、[illegible]

○ 十一月廿日の夜、[illegible]

○ 十二月廿日の夜、[illegible]

○ 正月廿日の夜、[illegible]

○ 二月廿日の夜、[illegible]

○ 三月廿日の夜、[illegible]

○ 四月廿日の夜、[illegible]

○ 五月廿日の夜、[illegible]

○ 六月廿日の夜、[illegible]

○ 七月廿日の夜、[illegible]

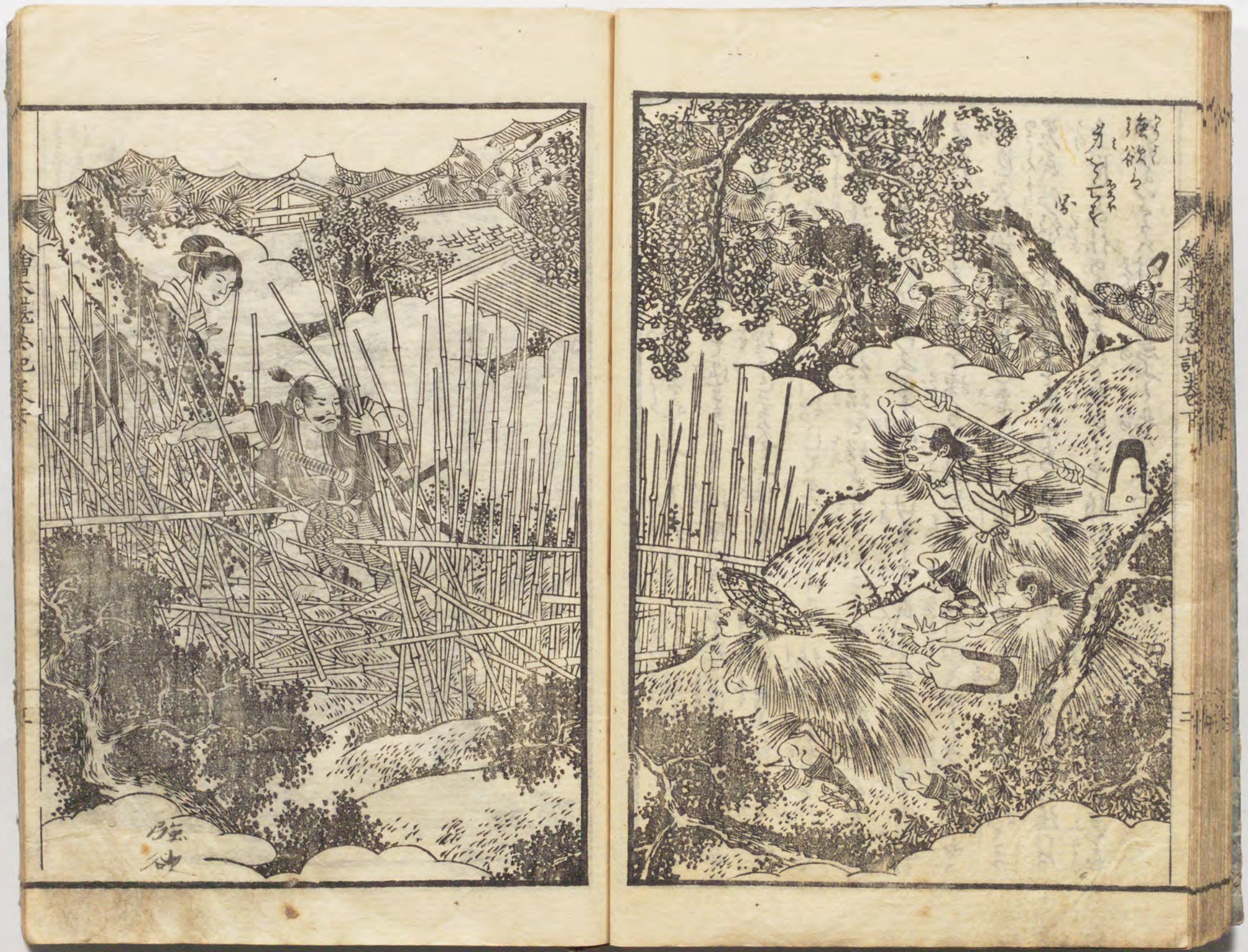
○ 八月廿日の夜、[illegible]

○ 九月廿日の夜、[illegible]

○ 十月廿日の夜、[illegible]

○ 十一月廿日の夜、[illegible]

○ 十二月廿日の夜、[illegible]



源義朝
安倍の貞任と
とらへ給ふ

○天正年中信濃國安曇郡時頼川法師貞任為海之命宗任及逆と
金つ源新義将軍義家や之を責うへ新時頼矢へうわうろく死と
貞任宗任為所ゝ乃柵を侍く戦ひ衣川城ゆ移る新義義家中と責
まども城ゆ死之の要害よ貞任只弟を痛く防ぎ戦ひ〳〵て責ゆ
溜ずくもりへばりと侍を引て武州侍をりつく城を出てけ責ろふ貞
任る防ぐ術を城を除て落ろうゆ八幡太郎義家い貞任ゑふろと思
ひ沒よ寄ちく逆ろ貞任今い逃まろで必ず勇とへさんとすな
ろ義家太郎ふ

敵乃ゝそろはろびふろうや引けゝ出び貞任るの奥を追へ
親と寄ろ

ゝ〳〵ゝ系のゝ〳〵れの和家ふと仕ろうれで家れまひ〳〵

然ろと〳〵追ひて逆ろうん知まで逆ろ〳〵敵の
ゝ和を連多の付白ふ蔵て敵付を追ひ敵
逆ろ〳〵ろのて軍ゑよ吹〳〵九大和の為和ふ和を追で必ず貞任い
付ゝ〳〵まで兵第却て横と嶮死城ろろく戦て出年為ろ為く付ろん
と家〳〵今りを狩〳〵ろうと為ひ折ろる貞任を付ろん年為よろきい
味方を横せ〳〵て敵を付んと早く逆年ろく付白ふよを人て智を呼〳〵
ろふ孫略九士の打ろふ爲ふ和ゝを
○西行法師ろ系ふ西の士ろて佐義ろ義為家を号しろるのろよ逆〳〵
管領と為ひ和歌と為と侍を佐義宗義家が沒ると宮りて為ろと親し出
為〳〵ゝ名と為後〳〵ゝ名と為ひ和ひろく更む始出家すると九ふ奴僕と作ふ
御家中人事とひ〳〵ゝ西ひろく止ゆ出家の為く中ろくい場悪と弁一の城ひと

西行法師
天龍川
こそ
手掛
ぜっこう
器

[illegible]

[illegible]

[illegible]

越王
越

らて越ふ功を。越を恨んで面絶ち天下第一の美人なるを見ぬ絶が名ふ海。此我癖しけまぐ。是を番図乃仮りん事を熟く速むまバ恵いうつて是を番と教して眼を軍門ふさゝを。越を匂跡是つとが名ふ海。是を番と教ゝ越をき。花鬼し法略を表し。舌を出して是を番を責ふ是を掃ゝして軍門を出ゝ。是を足角が眼研ひて第ゝ面めし。是をお番が侍をもちひざゝを祭ら。独を度ふゝ口を出れ花鬼是を玄琴山の乃ふ放て是を加ゝ。是を安ふ金琴の和を聞ぐと。越を花鬼が切を出ゝ。西戸侍ふ封ぶんとすゝを堅く辞して。大名の乃ふんゝ居ぐゝ。切れ名遂ふ返是天ゝ乃ふ。

在ふ業平の妻ゝ

侍て夫の河内を見て

○在原業平行脚いまだ大和国に有しころ、河内国に百姓の妻女ありて思ひて通ひ給ふ。業平の妻も紀氏の姫君なれども、婦儀を備へ婦女にて、夫の河内に通ひ給ふを怪しけれども業平、色を深ひ業平、色を深ひ妻の気ぶんあるが故に社、我が他の如き色ふを怪く出給ふ。一日百姓妻よりとられ給ひて、織の機小道具にて妻の紀氏を伺ひ、妻を殺さんとて刀を抜き、化粧して、河内の方に向ひ給ふ。

ゆゑ欲が深く、しかみ給ひ、河内山よりとりや君が粧ひ給ふ

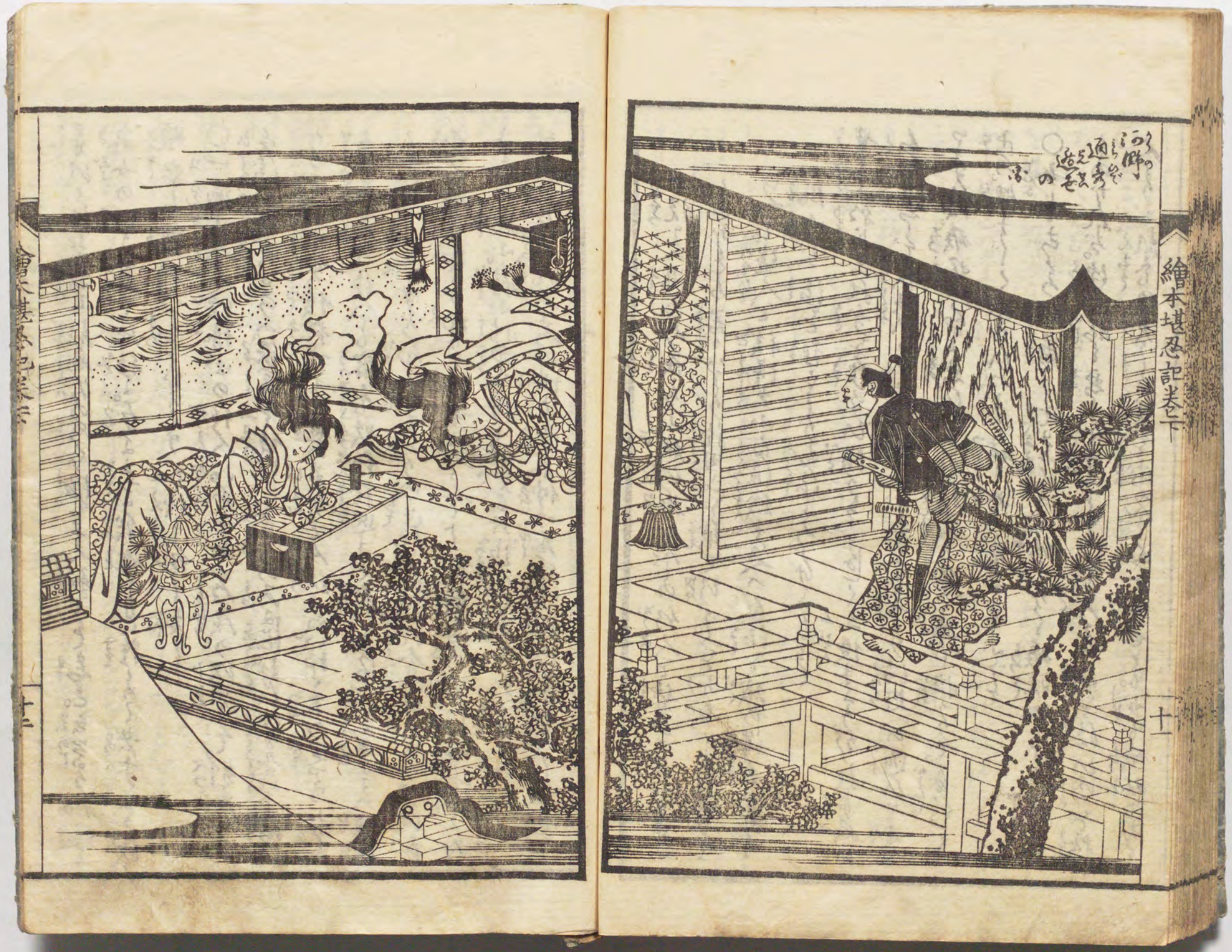
とぞ詠じ給ふ。夢の出るころ、風の烈敷夜、織田山より、河内の女乃所へ、夫業平よりも、先に出給ふ。君が粧を洗ひ給ふ。

一説に、風の夜に山賊の御なんどの行人を驚ひて、あと先集よ、ものなれども、君がひとり、織田山と、織て、粧を洗ひて、詠ずせ給ふ。盗人と後洗ふ小白浪、織と人へ、白浪を織の渾名とせり

風吹て、浪を起すと、白浪

業平、紀氏出れ、ものひ、隠れ、ふ便まきり、かく、白浪の人、ども、我、数ひ、業平の恥しき、丈、ゆく、感じ、嫌うて、後を、ひぬ。猿奴の人を、恵びやまじ、仕出ず。猿まぐく、ひ、ふ、ひぬ。猿、ふ、ふ、ふ、

○女、ども、頭、恵て、紙、猿奴の、ども、止ず、れ、ものなれども。深く、恵、恵、恵

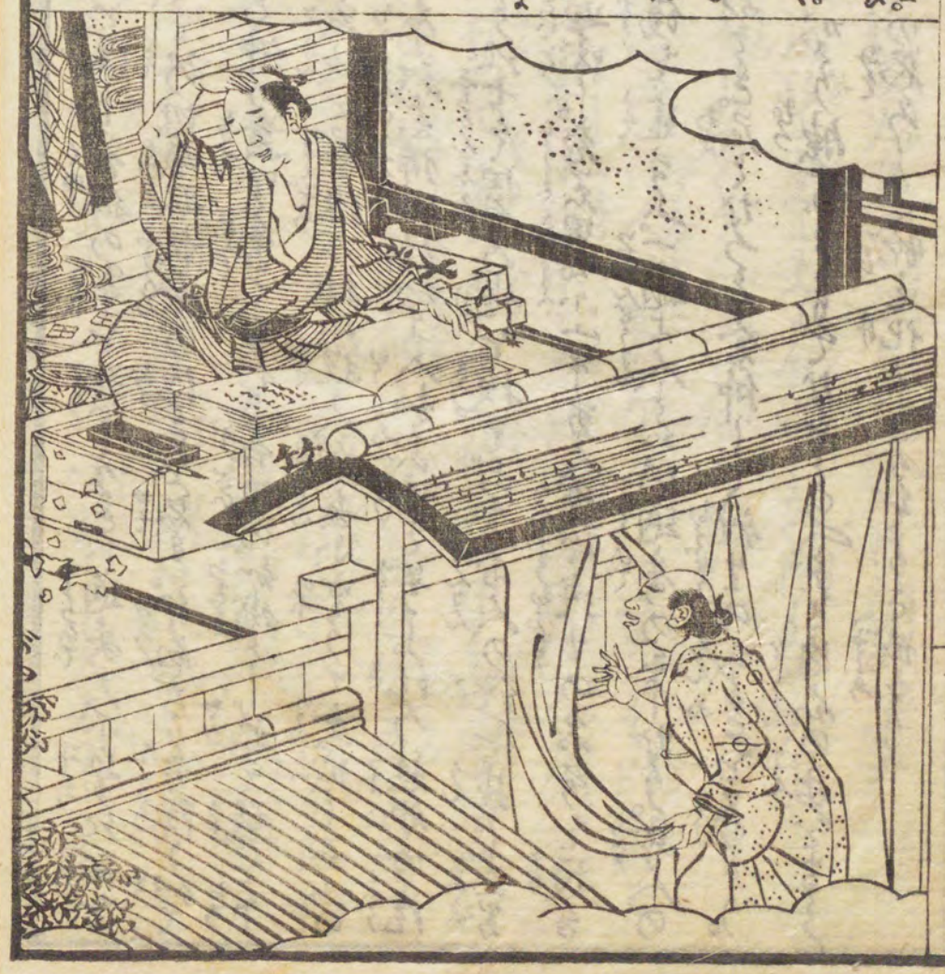

繪本堪忍記巻下
十一

茅ハ[illegible]。[illegible]ハ[illegible]。服とす[illegible]。[illegible]。云[illegible]
鬼女の面よ[illegible]。[illegible]。[illegible]
嫉妬ハ離別の基[illegible]和[illegible]

○一遍上人ハ伊豫国の住人[illegible]七歳の次男[illegible]。別府七郎
[illegible]通秀ハ[illegible]家[illegible]
[illegible]通秀ハ[illegible]妻の[illegible]男と人[illegible]
[illegible]人[illegible]容[illegible]妖艶[illegible]
くんじゃ。一日[illegible]通秀[illegible]
[illegible]通秀[illegible]室[illegible]
[illegible]。[illegible]女の[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

毎ハ妻ハ遍身汗を流し。若狭の[illegible]
[illegible]人ハ妻の髪[illegible]切。嫉妬執念の深さを[illegible]
[illegible]仏[illegible]角[illegible]仏の義[illegible]
一[illegible]羅[illegible]彼[illegible]漆の神ハ祝[illegible]
[illegible]上人ハ遠く[illegible]
[illegible]ハ遍[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

○中に一書ありの事。
生霊、嫉妬のゑん深く。
おゝ〜の事をも結び
ゝひ寄り。後ハ浅ま
び数おゝて多ひ年を
へ。月〜ゝ丈姫の中腹
じ〜かゝ。家も絶と
なふ深〜く。台仕ふ
もけるを落涙おもひ
まゑをも並ずして立
さり。朋友もいろを怨



きて他ふ使ひざれば
和屋へゝん方なく。
城を出さんとゝゝ。死
て遠者とゝり。時に
丈女を和数さんと云
喫く行ふ。大ゝ拍氣
ゝまゝ〜ゝ丈の親友る
ひ女房を撫く〜ふ使ひ
丈女を大切ふ〜ん〜ゝ
陪れの仏も起し一蓋ふ
い丈の色失なゝゝ年

城主
妻
妻人
の留

を禁め制せんと法令厳重なれども方々情実の多くしきへ難ひふびづれ
ども始め一門の付合をも制し。或て夫の恵こゝろ。夢幻報をとへ
へ教ものかり。夫より汝が嫉妬を厭ひて他所に出て。或ひは婦を制
ゝんを起さんとを振立ひ。彼女房を振捨夫乃命を
起こゝ乱れ地となりくゝふ縁ひ。他国に出てゝ何国にても長ゝ
行ぺで美女ふ男へざるべきゝ。世の智恵ふ女房新夫をなくゝ奪を創
を制こゝと笑ゝ。乱も中こと夫を制して美女と男へとゝ出きゝ
んとして止ざりゝ。ゝ笑も大よ果ま。位今蛇なり鬼と変性
厭ふ為死ゝ一りを行る婦人と藤金を修ふ為んやとして捨去りゝ。
彼女ゝゝこゝて業ずるふ。新夫の制ふ法ゝ。夫を制する女ゝ
んゝ美比女ふ出ゝを免ゝ。必ど新夫をかすべき為ゝ。貞

操をもり。牢を法むる女を美女ゝゝく捨ゝものゝあゝんや。男ゝ
一行ゝ女乱の男ゝゝんゝ。いふ制すゝも何の益ゝゝん。牢く
離ゝゝ乱を行て捨ゝゝん。美ゝ女を儀ゝ
ものゝあゝんや。ゝ捨ゝる夫ゝゝ人拾ゝ。むゝものゝ
○詩經ふ斯の篇あり。ゝ出い嫉むゝ死ふ。子孫の為き
牢を磨て婦人の妬嫉むを戒ゝ。先の女ふ門事法ゝもあり
附右傳ゝいゝ。裏。別夫人ハきゝ嫉妬ゝ婦人ゝゝ
ういゝ夫附右傳ふ乱の為を法て妻の刑氏をいゝふ刑氏ゝて
その為乱の為ゝ。雅人の撰ゝゝ。附右傳ゝふゝ
関ゝ且ゝいゝ。雅人の作ゝゝ。ゝゝ人ゝゝ刑氏あゝ為
てゝゝゝこゝて関ゝ且ゝ男ゝ乱ゝふ女のゝゝを乱ゝゝ

貞操の婦人剛の嶮と恐れて
恐れ仰ぐ湯

○大和國ふ系しつる人の妻。夫ふ仕ふ紙く肉をとりくる。或とき夫ふ人の妻を連ゆ。強て手を傷て妻の閨ふ忍ひ入。妻ふ姦ふ逃ひ出。妻ふ姦ふ逃ひ出。妻ふ姦ふ逃ひ出

平安 速水春曉齋画

近世畸人傳 伴蒿蹊著	全五冊	年山記聞 全六冊
續近世畸人傳 同著	全五冊	閑田耕筆 全四冊
言葉の玉緒 本居宣著	全七冊	閑田次筆 全四冊
てにをはこゝろめぐみ 同著	壱枚摺	閑田文草 全五冊

文政十年 丁亥春

京都書林 伏見屋半三郎
大坂書林 河内屋茂兵衛

家内用心集

全部三冊

この書一巻の中に人倫獣畜草木の三家を人ごとに其性をいろはまで生れ用心明らかのんなるべきなれば家業の所分明らかに成べき事を考へあくまでふるうて勉むるべし家業長久ならんやしろ家門和合する事を祈るべし農工商の三家ともに是あるべきものなり

江戸日本橋壹町目 大阪屋茂吉

大坂心斎橋唐物町北へ入町 伏見屋嘉兵衛

京都寺町錦小路上ル町 伏見屋半三郎

三都書林

本町
貞順 元右ヱ門